

広島県病院経営外部評価委員会（令和2年度第3回）議事要旨

- 1 日 時 令和3年1月28日（木） 午後4時から6時まで
- 2 開催方法 オンライン
- 3 出席委員 谷田委員長，大毛副委員長，木倉委員，中西委員，平谷委員，吉村委員，和田委員
- 4 議 題 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（素案）について
第3回安芸津病院耐震化対応検討専門部会について
- 5 担当部署 広島県病院事業局県立病院課調整グループ
TEL（082）513-3235（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容
事務局から、配付資料について説明が行われた後に、第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（素案）及び第3回安芸津病院耐震化対応検討専門部会に関する協議・質疑等が行われた。概要は、以下のとおりである。

【質疑応答及び意見】

- (1) 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（素案）について（資料2-1及び資料2-2）

事務局から第6次広島県病院経営外部評価委員会（期間延長版）（素案）の概要について説明を行い、その後、素案の内容や目標指標について、委員による質疑等を行った。

（広島病院に関する質疑等）

委員長：素案3ページの「エ 医療を担う人材の確保・育成」に記載のある、初期臨床研修医の県内定着率が93.8%といったことや医師や看護師等の講師派遣が毎年300回程度といったことは、広島病院の人材確保・育成の取組実績が高いといえる。こういったものについても目標指標とすることを検討してみてもどうか。また、研修会の参加者数も大事であるが、開催回数もひとつの指標としてはよいのではないか。

委員長：素案5ページの「オ 新型コロナウイルス感染症への対応」の記載については、県立病院として、県の施策に従ってコロナ対応に取り組んでいるということを加筆していただきたい。

委員：県立病院は県内医療機関で最も新型コロナ対応をしており、もう少し記載があってもよいと思う。

副委員長：延べ300人以上の新型コロナの入院患者を受け入れており、これは高く評価すべきことである。

病院事業管理者：県立病院も県内医療機関の一つであり、一体のチームとして役割分担の下に新型コロナ対応に取り組んでおり、県立病院だけが特別な対応を行っているわけではないが、記載内容については検討してみる。

委員：働き方改革に関する指標はないのか。

広島病院院長：病院における働き方改革については、これからの取組であると考えており、現時点で指標化することは難しいと考えている。

委員：素案11ページの目標指標「認定・専門看護師数（新規）」の目標数値が安芸津病院と同数値（1人）となっているが、これ以上は難しいのか。

広島病院事務局長：広島病院においては既に35人の認定・専門看護師が在籍しており、これは県内トップクラスであるため、病院の方針として、今後は毎年1人ずつ増やしていくことが現実的ではないかと考えている。

委員：「X 広報の充実」の目標指標としては、例えば、ホームページの閲覧件数やメディアの活用が大切という点から、プレス発信件数はどうか。広報について、病院が今何をやっているのかは、県民の関心が高く、ダイレクトに伝えることが重要である。

委員：ある病院では、医師を集めるため、医師が自らの言葉で診療内容を発信している例もある。
広報については、对患者、対クリニック、対病院の3つが考えられるのでどこをターゲットにするのか考える必要がある。

「X 広報の充実」の目標指標としては、プレスリリースの件数はどうか。

委員：地域で連携しているクリニックにも常に新しい情報を提供するのが大事ではないか。

常に情報がアップデートされていることで、患者にとっては病院間での連携が密なものとなる。

委員長：院内の広報委員会でどこをターゲットにして広報していくのかをしっかりと議論した方がよい。また、病院スタッフの言動・立ち振る舞いも一種の広報であり、ネット上の口コミも広報の一つである。

院長：広報委員会は毎月1回開催している。

例えば、ホームページは利用者に即したアクセスタブを設定している。院外広報誌を含め、ターゲティングした広報がどのように効果を得ているかは把握が難しい部分がある。

委員：他の医療機関にはないような特色のある広報誌作りを期待したい。

委員：広島病院は県全体の3次救急を担う病院であるので、県内の地域中核的な病院に、そういった広島病院の診療バックアップ機能があることを広報してもらうことも、安心感につながるのではよいのではないか。

委員：増収対策については、これまでも言ってきているが、広島市内の4基幹病院での連携を実現し、役割をもっと絞った上で考えていくべきではないか。

人口減少や高齢化などは抗えないものであり、医療需要の減少を考えると、4基幹病院の連携は極めて重要なものとなっており、これは働き方改革にもつながるものである。

委員長：病院の機能（強み、得意分野等）を十分に活かすことが増収対策であると考え。

また、政策医療にしっかり取り組んでいることの指標として、一般会計からの繰入金も、政策医療の必要性を理解してもらうためにはよいのではないか。

（安芸津病院に関する質疑等）

委員：素案6ページの「ア 地域包括ケアシステムの質の向上への貢献」に関する目標指標がないように思うが、訪問診療等はどうするのか。

安芸津病院院長：訪問診療、訪問看護、訪問リハについては、引き続き力を入れて取り組んでいく分野と考えている。

委員：中山間地域の地域包括ケアのモデル病院として、地域全体を病床とみて、安芸津病院の在宅ケアから看取りまでの拠点機能を位置付けていくべきではないか。

（両病院共通の質疑等）

委員：材料費についてきめ細かな分析を行い、材料費を抑えるための議論をしっかりとしていきたい。

副委員長：材料費については、抗がん剤を始めとする高額医薬品の使用量が増加傾向であることから、費用増がトレンドとなっていることは理解できる。

委員：材料費をがん領域とそれ以外に分けて、もう少し細かな設定とするという方法もある。

委員長：当該計画は平時の時の計画の延長線だと考えられるので、コロナ禍での特別な計画を考えて持っておいていただきたい。

(2) 第3回安芸津病院耐震化対応検討専門部会について（資料3）

事務局から第3回安芸津病院耐震化対応検討専門部会の概要について説明を行い、その後、委員による質疑等を行った。

委員：県立安芸津病院の今後の診療機能については、例えば小児科については、オンライン等により、地域の小児科などから診療支援をしていただくことも検討してみてはどうか。

また、小児救急も検討課題の一つと考える。

委員長：5Gも普及してきているので、オンライン診療はよいのではないか。

委員長：在宅療養についても、病院の一病床だと考えた上で、今後の診療機能を考えていただきたい。

病院事業管理者：安芸津病院は中山間地域のモデル病院となるよう検討を進める。

委員：県立病院なので、広島病院からの手厚いバックアップが可能なはずである。きめ細かな支援方法を検討していただきたい。

委員：耐震化パターンや資金シミュレーションを踏まえた議論がそろそろ必要ではないか。

事務局：本委員会や専門部会等での意見も踏まえ、パターンを検討するとともに、資金シミュレーションを行い、改めてご意見を伺いたい。

7 会議の資料名一覧

資料1 会議次第

資料2-1 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（素案）の概要について

資料2-2 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（素案）

資料3 第3回安芸津病院耐震化対応検討専門部会について